

第17回原子力安全検証委員会 議事速報

1. 「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の取組状況および監査結果

「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の報告書作成の考え方、2018年度上期の進捗状況・同監査結果、および2018年度下期以降の計画について報告し、審議。主な意見は以下のとおり。

○進捗状況報告は、3ヵ年計画であるため3ヵ年分載せている方が、達成度が見やすいのではないかと。このままでは2019年度になると単年分のみになってしまうのではないかと。（山口副委員長）

○労働災害を防止する具体的な対策例としては、不安全行動を排除する観点から、例えば、構内で上司等とすれ違うとき、頭を下げる（お辞儀する）ことで視野が変化し災害を誘発することを防ぐため、頭を下げず、敬礼をしている現場もある。また、ハード面の対策として、通路を少し広めにしたたり、作業ですれ違う時の退避場所を確保する例もあるので参考とされた。

（小澤委員）

○高浜1号機での労働災害については、同様の事例が建設時等過去に発生していると思われるので、その際の再発防止対策を確認したほうが良い。昔と違って現在では、安全性が向上した環境下で育った世代が中心となっており、リスク感受性が落ちている。また今回は、作業をしている直下に居たことがそもそもいけないのだから、多少時間を要しても退避するように、作業監視者の配置等も必要と考える。（小澤委員）

○過去に災害があつて優れた対策を講じていても、年月が経てば風化してしまう。それがなぜ風化したのかも含めて検証する必要があるのではないかと。（渡邊委員長）

○作業の基本として4S、5Sがあるが、そもそも4Sはメイン以外の作業に属するもので、それができていないということは基本ができていないということ。形状が異なるものを積むなど基本的なルールが守れておらず、整理整頓という基本的な考え方を身につける必要がある。（荒木委員）

- メインとそれ以外の作業を分けて分析しているが、少し違うのではないか。作業のカテゴリーで分けるのではなく、KYを行う際には一連の作業の中でリスクはないか、それを防ぐにはどういう対策を行うかを考えるべき。
(山口副委員長)
- 熱中症について、今夏は災害レベルの猛暑で多数発生したのは理解するが、発生「ゼロ」を目指して欲しい。熱中症はあらゆる作業現場で深刻な問題となっており、作業環境等の整備をお願いする。(松本委員)
- リスクマネジメントシステムはリーダーシップが伴うと機能する。ロードマップ報告書の記載では、現場に比ベシニアマネジメントクラスに重点が置かれていない印象がある。(山口副委員長)
- 社員育成計画はプラントが長期停止する中で大変な課題であるが、早期に具体的な取組みを出していくとともに、監査でも検証していくべき。
(山口副委員長)
- RIDMなど新しい仕組みを導入する際には、リーダーがその意味を理解し、リスクマネジメントシステムの中でリソースを適正にアロケーションする必要がある。また、新しい仕組みが導入される過程で、どのようにリーダーシップが発揮されているかを、監査でも見て欲しい。
(山口副委員長)
- リスクマネジメントシステムでは、社内での情報伝達や社外への情報発信などが重要であると考える。(松本委員)
- 総合防災訓練は、複数発電所での事故発生を想定するなど、IAEAの指摘にも合致しており、有効だと考える。(山口副委員長)
- 総合防災訓練を視察したが、大容量ポンプ付属の取水ポンプの移動において坂道の登りなどかなり大変な作業と見受けた。もう少し容易に動かせるように検討すべきではないか。また訓練の評価や、それに対してどのような対策を実施しているかを報告して頂きたい。(小澤委員)
- 自然の風水害とは異なり、原子力災害では事象の進展や被害を想定するしかない。総合防災訓練では国や自治体との協働体制を確認できるが、それ以外に社内でも、様々な過酷な状況を想定して訓練を重ねて欲しい。
(田中委員)

2. 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況

美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況について報告し、審議。
主な意見は以下のとおり。

- 安全のための資源が適正に投入されているかを判断するのは難しいが、週間リスク情報などをより効果的に活用すれば、本当に安全にとって重要なところを重点化できるのではないか。(山口副委員長)
- 反省だけに留まらず安全文化向上に繋げる取組みは評価できる。安全最優先が第一にあって、経営上、運営上の課題があることを理解し、組織や社員一人ひとりが風化させずに深化させる必要がある。(田中委員)
- 原子力発電所では緊急事態での適切な対応が重要となるので、安全意識を高め、高度なスキルを有した人材を育成していく必要があると考える。
(田中委員)

以 上